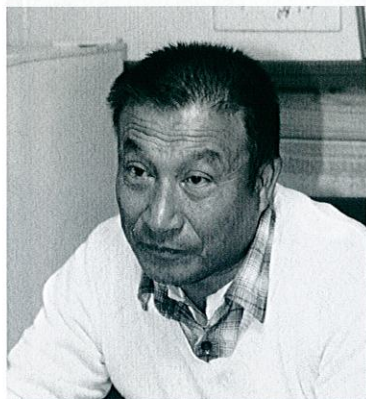




# 逆境を好機へと転じる石屋、ここに在り 時代の先に新たな活路を見出す石材職人集団

1987年創業の『千石匠』は、“ホンモノ”のものづくりにこだわり続けてきた石材の職人集団。ただ、近年逆風が吹き荒れる石材業界、従来の運営手法に固執しては淘汰の波が押し寄せ。そこで改めて石の可能性を掘り下げ、世の人々の心を掴むものづくりに打って出た。逆境を好機に転じつつある石屋をタレントの布川敏和氏が訪問し、匠の心に迫った。



## TALK INTERVIEW

地 | 域 | を | 育 | む | 人 | と | 企 | 業  
代表取締役 専務取締役

千々松 滋

千々松 広茂

せんせきしょう  
株式会社 千石匠

茨城県桜川市真壁町下谷貝 2004-2  
TEL 0296-54-1586 FAX 0296-54-1972  
フリーダイヤル 0120-158-661  
URL : <http://www.ishinoyado.co.jp/>



布川 ご創業は、何年ですか。

千々松(滋) 1987年に『千々松石材工業』として創業し、2002年に有限会社としました。2009年に株式改組し、社名も『千石匠』に変更して新たなスタートを切ったのです。

布川 社名変更には、何かきっかけが？

千々松(滋) 息子が後を継ぐことになったからです。石材業界は極めて厳しい時期だからと反対したのですが、「それでも継ぎたい」と相当な覚悟を決めていましたから、聞き入れることにしました。

千々松(広) 元々、石材職人に囲まれて育ち、その粋な姿に憧れていたのです。そして何より、石材職人として信念を貫く父の背中に心を動かされ、その伝統と技術を途絶えさしてしまうわけにはいかない、守り継がなければと、会社勤めを辞めて修業に入りました。

布川 厳しい時代にあって、並々ならぬ決意で業界入りされたご息は、非常に

頼もしい存在ですね。

千々松(滋) そうですね。ただこれからの時代、墓石だけでは石屋として存続していくのは難しい。そうした危機感は以前からありましたから、墓石に代わる新たな可能性を見出そうと、これまで色々挑戦を重ねてきました。その中で目をつけたのが、一般の方々の生活にも馴染むような製品です。

布川 時代に挑戦する攻めの姿勢が窺え

### 「真心のこもった深い味わいのあるものづくりで 世の人たちにその魅力をアピールしたいです」

ます。具体的にどのような製品を？

千々松(滋) 国産石材を自社で加工した「和のあかり」という照明器具です。息子や職人たちと共にデザインを考案し、石本来の魅力を可能な限り引き出すよう心掛けました。スタートしてまだ1年ほどですが、テレビやラジオなどにも取り上げていただいています。職人の技

と日本デザインにスポットを当てた東京のセレクトショップ『Rin』でも展示会をさせていただいていますが、お陰様で反響は上々のようですね。少しずつファンも増えてきていますので、今後さらに知名度を高められるような取り組みを続けていくつもりです。

布川 先程拝見しましたが、石のイメージを覆すような柔らかな印象を受けました。デザイン性も高く、インテリアにこだわる方には好まれると思います。

千々松(滋) ありがとうございます。他にも、工場見学や一般参加型の石材加工イベントなども企画し、より多くの方に石に親しみ、身近に感じてもらえる機会を設けています。これまで地道に石材職人を育て上げ、地元産ならではの石の魅力を広めようと尽力してきたことが結果として表れてきていることを、うれしく思いますね。

布川 最後に、今後の意気込みを。

千々松(広) これまで受け継がれてきた匠の技をしっかりと修得していくことで、人々を魅了するものづくりを次代へとつなげていきたいです。

千々松(滋) 今後も当社ならではの味わい深く真心のこもった製品を送り出し、世の人たちにその魅力をアピールしていきたいと思っています。

### 対談を終えて……



「千々松社長が発案された『和のあかり』は石の魅力に改めて気付かされる、とても素敵な製品でした。熟練の技を備え、石の魅力を知り尽くしている匠だからこそ生み出せるのでしょう」

布川 敏和・談

